

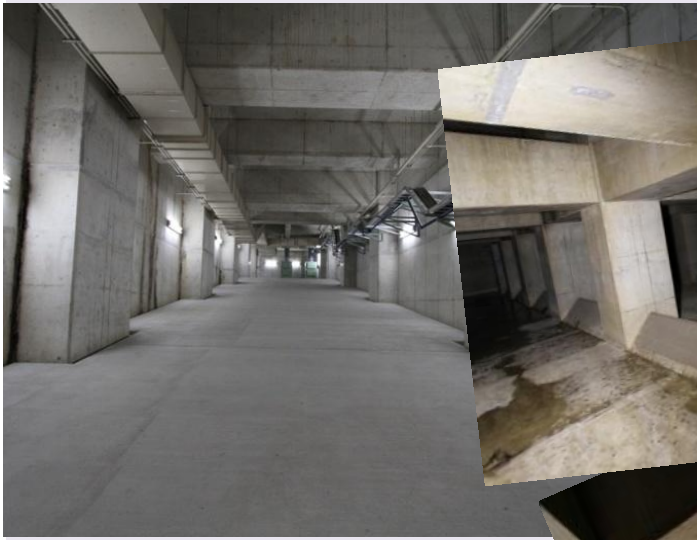
シリーズ 下水道探訪

東京の足元を流れる下水道は、様々な顔を持っています。
ここでは、下水道に関するいろいろな施設等をシリーズでご案内しています。

第4回目は、「南砂雨水調整池」をご紹介します。

今回は、20世紀初頭に流行した「形態上の極端な解体・単純化・抽象化」を特徴とするキュビズム風の作品を思わせる写真を掲載しました。



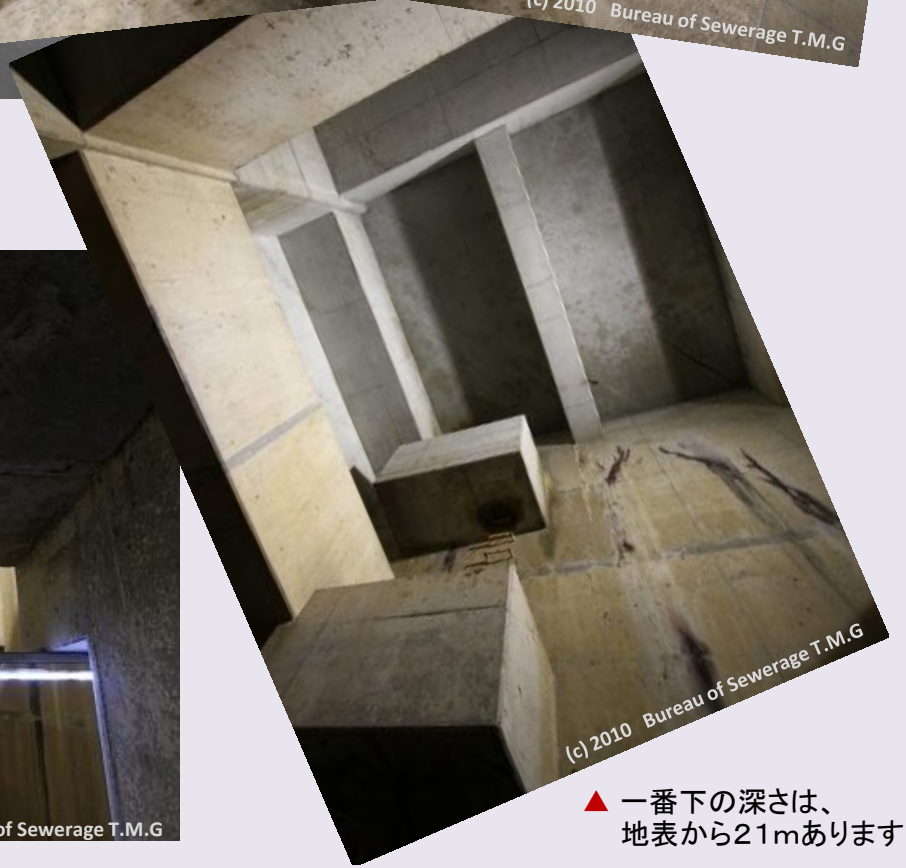


(c) 2010 Bureau of Sewerage T.M.G

▼ 溜まる水量は、奥行き63m×幅46m×高さ9mの25,000m³です。



(c) 2010 Bureau of Sewerage T.M.G



(c) 2010 Bureau of Sewerage T.M.G

▲ 一番下の深さは、地表から21mあります。



(c) 2010 Bureau of Sewerage T.M.G

▲ 雨水ポンプ設備



この調整池は、集中豪雨などにより下水道管内の水位が急上昇した時、雨水を一時的に溜めておきます。雨がやみ下水道管内の水位が下がると、溜めていた雨水は左の写真のポンプにより下水道管に戻される仕組みになっています。

▼ 調整池に溜めた雨水からの臭いは、この設備で脱臭します。



(c) 2010 Bureau of Sewerage T.M.G

▲ [一覧へ戻る](#)